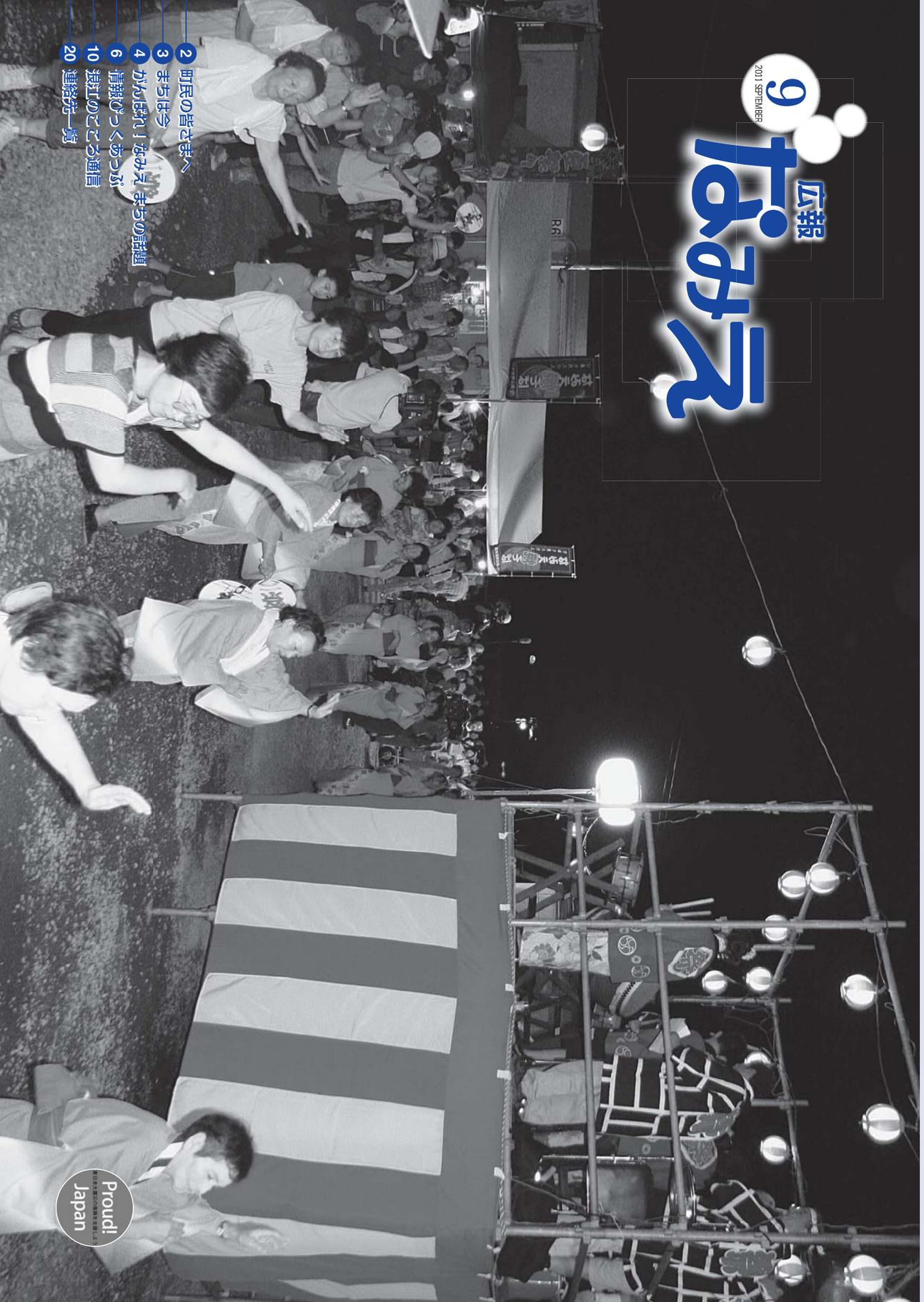

なみえ

9 2011 SEPTEMBER

広報

2 町民の皆さまへ
3 まちは今
4 がんばれ！なみえ まちの話題
6 情報ぴっくあっぷ
10 浪江のところ通信
20 連絡先一覧

Proud! Japan

受け継がれる伝統芸能
―請戸の田植踊―

８月21日、いわき市のアクアマリンふくしまで、民俗芸能合同公演イベント「海道の歴史と文化に学ぶ」が開催されました。第二部の民俗芸能公演では、請戸芸能保存会による「請戸の田植踊」が行われました。

今年２月の安波祭の際のメンバーを中心に踊り子が集まり、復興への願いを込め、見事な田植踊を披露しました。公演後、浪江町民をはじめ、会場に訪れた多くの観客から大きな拍手が送られました。

地域の絆守るため

樋渡牛渡地区の皆さんが、農作物栽培を通じて、地域住民の交流・親睦を図るため「きずなファーム」を立ち上げました。

福島市内の農地を茂木健一さん（福島市）から無償でお借りし、区長を総括責任者として現在17名の方が参加しています。

庶務会計を担当している亀田和行さんは、「みんなと会って話がしたいから、遠くからでも集まる。顔を合わせて一緒に作業をし、地域の絆を守っていきたい。」と話してくださいました。

栽培した作物の販売開始を目標に、みんなで元気にがんばっています。

連絡先一覧

■**浪江町役場二本松事務所**
〒964－0904
福島県二本松市郭内一丁目196－1
男女共生センター内
TEL 0243－62－0123　FAX 0243－22－4261

■**福島出張所**
〒960－8601
福島県福島市五老内町３番１号
福島市役所９階（西側）
TEL 024－535－0750　FAX 024－535－0753

■**浪江町教育委員会**
TEL 080－2807－6933・080－2807－6951
FAX 0243－22－4261

■**浪江町社会福祉協議会**
TEL 0243－62－0123

■**浪江町商工会**
あだたら商工会内
TEL 0243－22－9100

なみえ　平成23年9月 No.548　毎月1回1日発行
発行・編集　福島県浪江町役場総務課
福島県二本松市郭内一丁目196－1男女共生センター内
TEL 0243-62-0123㈹　FAX 0243-22-4261
http://www.town.namie.fukushima.jp
ホームページやフェイスブックは、携帯からもご覧いただけます。ＱＲコードをご利用ください。
資源保護のため広報なみえは再生紙を使用しております

町民の皆さまへ

異郷の地での浪江町盆踊り

浪江町長　馬場　有

皆さま、お元気ですか。

8月15日は、66回目の終戦記念日でした。皮肉にも私たちは、「目に見えないやっかいな敵」放射能と闘っており、故郷に帰還するにしてもこの敵を低減化しなければなりません。県内において大学等の研究グループが、実証実験・汚染調査を進め一部成功していますが、実践段階での除染はいつになるか予断を許しません。東大アイソトープ総合センター長の児玉教授は、「日本には化学、放射線除去、土木建築など世界に冠たるメーカーがある。この業種間交流を深め、除染技術を共同で開発するプラットホームを福島県に設置すべき」と提案しています。政府・東電は、この提案を受け入れ、早急に除染活動に専念し、一刻も早く放射線の呪縛から解き放たれ、帰町したいものです。

さて、今年のお盆は祖先・新盆のお墓参りができない異郷の地での御霊への合掌となり、大変残念至極でありましたが、8月11日震災から5カ月を契機に、二本松市商店街連合会「夏まつり実行委員会」のご厚情により、「相馬流山おどり」「浪江町盆踊り大会」が企画されました。

多数の町民参加のもと盛大に開催され、再会できたこと、誠に幸甚に思います。「浪江町の伝承文化」が蘇り、故郷に思いをひとつにした感動の一日でありました。あらためて、思いやりのある二本松市の関係機関各位、ならびに浪江町新町商店会、相馬流山保存会の皆さまに感謝申し上げます。ご先祖さまへ多少なりともご供養になったと存じます。

また、町が現在取り組んでいる最優先課題は、避難先でも被災元でも従前の福祉サービスができるよう要請していくこと。さらに、損害賠償・補償の中間指針を踏まえ、明記されなかった原子力賠償も含め県弁護士会と協調し、本払いに臨みたいと考えます。

結びに、今夏は熱い日が続きました。残暑も続くものと思いますので、体調管理に十分気をつけてお暮らしいただきますよう祈願しております。

まちは今

平成23年３月11日、私たちを襲った大震災から６カ月が過ぎようとしています。

今、町はどのようになっているのか。現在の町の様子をお届けします。

新町通り

マリンパークなみえ

役場屋上から見た町の様子①

３月11日、地震・津波により多くの家屋が全壊し、死者144名、行方不明者40名（８月16日現在）と多くの尊い命が犠牲となりました。そして、福島第一原子力発電所事故による避難指示。

一日３回食事をすること。
毎日お風呂に入ること。
あたたかいお布団で寝ること。
友だちと一緒に勉強すること。
家族と一緒にいること。

“あたり前”だと思っていたすべてのことが“あたり前”ではなく、とても幸せなことだったのだとあらためて気付かされました。

家を失い、大切な人を亡くし、ふるさとを追われ、今もなお苦しい避難生活は続いています。

それでも現実を受け止め、前に進まなければなりません。

少しずつ、一歩ずつ、前へ―。

請戸地区

幾世橋地区

苅野小学校

陶芸の杜おおぼり

役場うしろ国道１１４号

役場屋上から見た町の様子②

まちの話題

ま た会おうね

３月に卒業した町内各小学校の６年生（現・中学１年生）に、卒業証書が手渡されました。

４カ月遅れの「卒業式」となりましたが、卒業生たちはひとつの区切りをつけ、新たな道を歩き出しました。

卒業生数	
浪 江 小	105名
幾世橋小	29名
請 戸 小	19名
大 堀 小	38名
苅 野 小	29名
津 島 小	10名
合計	230名

大堀小

幾世橋小

請戸小

津島保育所

コスモス幼稚園

修 了おめでとう

津島保育所とコスモス保育園で４カ月遅れの修了式が行われ、ひとりひとりに修了証書が手渡されました。

久しぶりの友だちとの再会に、子どもたちの元気な声が響きわたりました。

心 をひとつに

８月７日、ヤングプラザスポーツ少年が全日本ジュニア綱引選手権大会に出場しました。

同スポ少では、震災後団員がばらばらになり、十分な練習をすることができませんでしたが、大会前１週間、猪苗代町で合宿を行い、心をひとつにして大会に臨みました。みごと280キロ以下の部で３位入賞を果たし、町に元気と勇気を与えてくれました。

大 自然を満喫

８月１日～７日の７日間、浪江町の小学生20名が「長渕剛 TRY AGAIN for JAPAN 福島っ子 鹿児島サマーキャンプ in 霧島」に参加し、鹿児島の自然と夏を満喫しました。

鹿児島では、無人島で魚釣りや長渕さんとのマリンスポーツ、新極真空手などを体験しました。

長渕さんをはじめ、霧島市長、霧島市おやじの会の皆さま、ホームステイのご家族などのあたたかい気持ちにふれ、子どもたちは忘れることのない最高の夏の思い出を作ることができました。

浪 江町の盆踊り

８月11日、二本松市の方々のご協力を得て、二本松の夏祭り会場で「浪江町の盆踊り」と「相馬流れ山踊り」が開催されました。

会場では、多くの町民が集まり浪江の文化に触れ、ふるさと浪江の復興に向け思いをひとつにしました。

また、このほか福島市の仮設住宅や岳温泉でも浪江町の盆踊りが行われました。

浪 江に元気を

８月９日、海援隊の皆さん（武田鉄矢さん、中牟田俊男さん、千葉和臣さん）が浪江町民を歌で励まそうと二本松市の安達体育館を訪れました。「贈る言葉」や「母に捧げるバラード」などを熱唱し、訪れた町民らに元気を与えてくれました。

また、役場二本松事務所も訪問され、職員らに激励の言葉をかけてくださいました。

幸 せをよぶ金魚

北塩原村のペンションに避難されている永井敏さん（大堀）は、お世話になったペンションの方への感謝の気持ちや復興への願いを込めて「幸せをよぶ金魚」を作られています。

ひとつひとつ手作りされ、ペンションや訪れた方に手渡されています。永井さんは、「暗い話題ばかりなので、明るい話題になれば…。」と話してくださいました。

金魚には、浪江町の町章と「がんばっぺ　なみえ」の文字が刺繍されています

あ りがとうございました

埼玉県毛呂山（もろやま）町（井上健次町長）から時計と義援金が届けられました。

埼玉県災害対策本部の取り組みとして、埼玉県内の各市町村が分担して、福島県内の各被災市町村を支援していただけることとなり、毛呂山町が浪江町の支援町となりました。

今回贈られた時計は、二本松市内に開校した浪江小・中学校の各教室に飾られます。

合同会社こころざし様（代表 志村・オリオン・冬樹さん）から神奈川県茅ケ崎市の沖縄料理店「茅ケ崎チャンプルー」に来店された多くのお客さまから寄せられた義援金が届けられました。

ＤＵＡＬ株式会社様（東京都）から扇風機20台を寄贈していただきました。扇風機は避難所に設置されました。

浪江町への義援金

８月17日現在、522件２億7,254万6,584円の義援金が寄せられています。このうち、１億6,600万円が各世帯へ配分されています。皆さまの温かいご支援、ありがとうございます。

情報 ぴっくあっぷ

問 問合せ
申 申込み
TEL 電話
Fax ファックス
e メールアドレス
URL ホームページアドレス
0120 フリーダイヤル

東日本大震災に係る火葬費用の取扱い

東日本大震災で亡くなられた方や震災と関係がある死と認められる方の火葬費用について、災害救助法の適用により、ご遺族が負担した火葬費用が国庫負担となります。すでにご遺族が支払われている費用を返還いたします。

▽**対象者**
東日本大震災の災害発生時に浪江町に住所を有する方で、「震災と関係がある死」と認められる次のような場合を対象とします。
(1)津波や地震に伴う土砂崩れにより亡くなった方
(2)避難所で亡くなった方
(3)搬送された病院や社会福祉施設等で亡くなった方
(4)震災前に病院や社会福祉施設等に入院および入居していて、震災後搬送された病院や社会福祉施設等で亡くなった方
※事故で亡くなった方や応急仮設住宅・借上げ住宅・公営住宅・民間住宅・持ち家等の入居後に亡くなった方等は対象外
※自ら命を絶たれた方は、対象外
※他県等から火葬費用の支給を受けている場合は対象外

▽**対象期間**
3月11日の災害発生後から7月31日までにご遺族が負担し、火葬した費用

▽**対象経費**
(1)火葬費用、棺（付属品も含む）、骨壷・骨箱、遺体安置料（遺体保存のための資材代も含む）および遺体搬送料。これらのうち県が必要と認めるもの。
(2)大人（満12歳以上）の場合
2201,000円以内
小人（満12歳未満）の場合
160,800円以内
を原則とする。
※式典費用（祭壇、供花、酒代）は対象外

▽**受付期限**　11月30日(水)

問 災害救援班
TEL 090－6064－2857

県税の優遇措置

■**代替自動車の非課税措置**
地震や津波による被災自動車の代替自動車を取得した場合、申請により自動車取得税と平成25年度まで各年度の自動車税が非課税となります。
※納付済みの場合は、還付されます。

■**相当の修繕費を要した自動車の減免措置**
地震や津波により自己の所有する自動車が損害を受け、修繕費（保険金、損害賠償金などで補てんされる金額を除く）が被災前の自動車の価格の30％以上である場合は、申請により自動車税の減免措置を受けることができます。
※原子力災害による被災自動車は、現在救済措置を検討中です。

■**被災代替家屋等の不動産取得税**
東日本大震災により被災した家屋の所有者が、平成33年3月31日までに新たな家屋を取得した場合、「新たに取得した家屋」の不動産取得税が軽減されます。
また、被災した家屋の敷地である土地の所有者についても同様の軽減措置があります。

■**個人事業税の課税等**
県内で事業を営んでいる方を対象とした個人事業税は、通常8月31日（第1期分）までと11月30日（第2期分）までの2回に分けて納めることになっていますが、平成23年度課税分は、東日本大震災に伴う納期限等の延長措置により、納税通知書の発付を延期しています。
また、事業用資産に受けた損害の程度に応じて減免を受けることができます。

お問い合わせ先	電話番号
県北地方振興局県税部	024－523－4789
県中地方振興局県税部	024－935－1233
県南地方振興局県税部	0248－23－1512
会津地方振興局県税部	0242－29－5233
南会津地方振興局県税部	0241－62－5212
相双地方振興局県税部	0244－26－1123
いわき地方振興局県税部	0246－24－6024
県庁総務部税務課	024－521－7067

自動車の抹消登録手続き

■**永久抹消および自動車重量税特例還付申請の無料受付**
「東日本大震災により滅失または使用不能となった自動車」および「福島第一原子力発電所から半径20㎞圏内の警戒区域に放置された自動車で当該自動車の再使用または譲渡する意志のない自動車」の永久抹消および自動車重量税特例還付申請を無料で受け付けます。

▽**実施期限**
平成24年3月11日(日)

▽**受付時間**
9時～12時　13時～16時
（土・日・祝日を除く。）

▽**受付電話番号**
024－539－6262

問 東北運輸局福島運輸支局登録部門
TEL 024－546－0345

泉田川漁業協同組合からのお知らせ

泉田川漁業協同組合では、仮事務所を設置しました。泉田川漁業協同組合に関するお問い合わせは、左記までお願いします。

■**泉田川漁業協同組合**
福島市御山字下川原17－1
西坂仮事務所
TEL・FAX 024－531－5409

B型肝炎感染者の方を対象にした電話相談会

平成23年6月に成立した国との基本合意に関する、集団予防接種によるB型肝炎感染者を対象とした電話相談会を実施しています。

▽**日時**
平日　月～金曜日（随時）
9時～17時

▽**場所**
全国B型肝炎訴訟新潟事務所

▽**相談費用**　無料

問 全国B型肝炎訴訟新潟事務所
TEL 025－223－1130
FAX 025－378－1662

思い出の品を展示しています

津波により流出した写真や位牌、賞状、バック、時計など思い出の品を展示しています。
所有物と確認できたものは、お持ち帰りすることができます。
あなたの大切な思い出、探しにきませんか。

▽**展示物**
南棚塩、請戸、中浜、両竹地区で発見された思い出の品

▽**場所**
上竹倉庫
（福島交通二本松事務所向い）
二本松市上竹一丁目81－1

▽**時間**　9時～17時

TEL 090－6062－5565

事務所移動のお知らせ

浪江町教育委員会と浪江町社会福祉協議会の事務所が、福島県男女共生センター内の二本松事務所から、二本松第2事務所に移動しました。

浪江町役場二本松第2事務所
（二本松市郭内一丁目81）
TEL 0243－62－0123（代表）

福島県内の民間賃貸住宅に係る家賃等返還（遡及措置）について

3月11日の被災日以降、避難のため被災者が自ら県内の民間賃貸住宅に入居し、被災者がすでに支払った入居のための費用については、入居日にさかのぼって県が負担します。

■**対象世帯**
東日本大震災により住宅が全壊等し居住する住家がない世帯、または原子力事故による避難指示等が出ている地域内から避難している世帯で、自らの資力では住宅を得ることができない世帯のうち、次のいずれかに該当する世帯
①避難のため入居していた県内の民間賃貸住宅を福島県借上げ住宅に切り替えた世帯
②避難のため入居していた県内の民間賃貸住宅から県内の別の応急仮設住宅等に住み替えた世帯
※この制度は、民間賃貸住宅の入居費用を対象としていることから、ご自分でペンションや旅館に支払った費用は、今回の制度外です。
＊応急仮設住宅等とは、仮設住宅のほか民間賃貸住宅、空き家、公営住宅、雇用促進住宅、公務員宿舎などを含みます。

■**対象期間**
平成23年3月11日から県内の応急仮設住宅等に入居するまでの間で、県内の民間賃貸住宅に入居していた期間（なお、県が負担した対象費用の期間については、借上げ住宅・仮設住宅等の入居期間として取り扱います。）

■**対象費用**
- 対象世帯が負担した敷金、礼金、仲介手数料
- 損害保険加入費用（入居に伴う借家人賠償保険、家財保険等）
- 家賃（駐車場代を含めることを可とする。）、管理費、共益費

■**申請手続き**
申請者（入居者）が「家賃等代理受領承諾申請書兼契約置換書」に必要事項を記入、押印し、貸主、仲介業者から承諾印をもらった上で、次の申請に必要な書類を「郵送先」へお送りください。
ア 家賃等代理受領承諾申請書兼契約置換書（3部）
イ 被災された方（申請者）自らが契約した民間賃貸住宅の契約書の写し（1部）
ウ 各市町村が発行した入居決定通知書等の写し（1部）
エ 支払先・金額が記載されている領収書の写し、振り込み明細書の写し（1部）
オ 振込口座が確認できる預金通帳の写し（1部）
カ 住民票等の写し（1部）
※申請者名と振込口座の名義が異なる場合のみ添付

■**申請受付期限**　10月31日(月)
※郵送のみの受付で、10月31日(月)必着までとします。

■**郵送先・お問い合わせ**
〒960-8670　福島県災害対策本部　遡及（そきゅう）措置担当
TEL 024－522－6511・6512
（平日のみ　9時～17時）

浪江町コールセンター閉鎖

8月31日をもって浪江町コールセンターは閉鎖しました。
各種お問い合わせや書類の請求は、浪江町役場二本松事務所にご連絡ください。
TEL 0243－62－0123

郵便局へ転居届を

お近くの郵便局の窓口に転居届を出すことで、1年間旧住所（浪江町）あての郵便物等が新住所（避難先）に転送されます。
大切な郵便物を受け取るためにも郵便局へ転居届を出しましょう。

被災農業者等の雇用・就労支援

県では、震災等により被災し避難を余儀なくされている被災者の皆さんの農作業による就労を応援します。

■県内の農業法人等への就労支援（特色ある園芸産地育成実証事業）

県と契約を締結した農業法人等において、園芸作物等の栽培管理の農作業従事者を募集します。

▽対象者
東日本大震災により被災した失業者等

▽就業内容
園芸作物等の植え付け、収穫、出荷調整等の栽培管理作業

▽雇用期間
平成23年度中

▽雇用人数
県内で合計120名（予定）

▽求人方法
ハローワークや就業紹介事業者等を通じて募集

■短期的な就労を考えている方へ

避難先に近い農家等において、季節的な栽培管理作業などの就労機会を提供します。

■避難先等で営農を目指す方へ

避難先等で新たに営農を希望する被災者の皆さんには、県や市町村が実施している営農支援事業の紹介や農地等の情報を提供します。

問 県農林事務所農業振興普及部（営農相談窓口）
県北 TEL 024－535－0436
県中 TEL 024－935－1310
県南 TEL 0248－23－1563
会津 TEL 0242－29－5307
南会津 TEL 0241－62－5264
相双 TEL 0244－26－1152
いわき TEL 0246－24－6161

平成24年 成人式

町では、平成24年成人式の開催を次のとおり予定しています。

▷**開催日** 平成24年1月8日(日)
10時～ 受付 11時 開式
▷**会 場** 二本松市安達文化ホール（二本松市油井字濡石1－2）
▷**該当者** 平成3年4月2日～平成4年4月1日生まれの方
※詳細は、該当者にご案内します。

問 生涯学習課 TEL 0243－62－0123

浪江町内小中学校等の空間放射線量測定結果

浪江町が独自に実施した浪江町内小中学校等の空間放射線量の測定結果をお知らせします。

（測定地：地上高 H=1.0m 単位：μSv/h）

測定地	測定詳細箇所	測定値（8月12日）	測定値（8月19日）
津島小学校	校庭「中央西北より」	8.12	8.58
津島中学校	校庭「中央東北より」	10.50	11.40
浪江高等学校津島校	校庭「中央西北より」	15.20	16.00
苅野小学校	校庭「中央西北より」	6.90	8.18
川添字中上ノ原地内	中上ノ原A町営住宅「公園中央南より」	5.68	7.51
大堀小学校	校庭「中央東より」	5.41	7.34
浪江中学校	校庭「中央西北より」	9.33	8.24
ふれあいセンターなみえ	グラウンド「中央西北より」	7.12	7.98
浪江小学校	校庭「中央東南より」	1.32	1.13
浪江高等学校	校庭「中央西北より」	3.04	3.27
藤橋字亀下地内	浪江日本プレーキ㈱工場敷地「西より」	1.47	1.47
浪江町役場	庁舎「西より」	0.60	0.65
北幾世橋字北中谷地地内	エスエス製薬㈱福島工場敷地「北西」	0.56	0.65
幾世橋小学校	校庭「中央東より」	0.46	0.59
請戸小学校	正面玄関「東より」	0.22	0.27
浪江東中学校	校庭「中央東北より」	0.45	0.63

空間放射線量測定結果（二本松市・福島市・本宮市・桑折町）

浪江町の仮設住宅所在市町村の放射線量をお知らせします。

（単位：μSv/h）

測定場所		測定値（8月17日）	測定値（8月19日）	備考
二本松市	二本松市役所	1.03	0.96	二本松市役所測定
	安達支所	0.46	0.53	
	岩代支所	0.86	0.85	
	東和支所	0.80	0.79	
福島市	福島市役所（東棟）	1.31	1.38	福島市役所測定 ※地上1m
	渡利支所	2.37	2.31	
	杉妻支所	0.44	0.45	
	蓬莱支所	1.71	1.70	
	清水支所	1.10	1.06	
	東部支所	0.90	0.83	
	大波出張所	2.28	2.23	
	北信支所	1.06	1.03	
	吉井田支所	0.97	1.02	
	西支所	0.49	0.49	
	土湯温泉町支所	0.16	0.16	
	信陵支所	1.70	1.74	
	立子山支所	0.89	0.92	
	飯坂支所	1.28	1.26	
	松川支所	0.77	0.79	
	信夫支所	0.82	0.81	
	吾妻支所	1.40	1.36	
	飯野支所	1.48	1.47	
本宮市	本宮市役所	0.64	0.66	本宮市役所測定 ※地上1m
	白沢総合支所	0.56	0.54	
桑折町	桑折町役場	0.67	0.63	桑折町役場測定 ※地上1m

被災者支援 なんでも行政相談

行政機関などが一堂に集まって、県内を巡回しながらワンストップでさまざまな相談に応じます。

困っていること、知りたいことなどがございましたら、なんでもご相談ください。ご相談は無料、秘密厳守です。

▽日時・場所
9月8日(木) 13時～16時 田村市船引公民館
9月14日(水) 13時～16時 伊達市学習交流館

▽主催
総務省福島行政評価事務所
福島地域行政相談連絡協議会

問 総務省福島行政評価事務所 TEL 024－534－1101

日本脳炎予防接種

平成7年6月1日以降に生まれたお子さんで、平成17年度～平成21年度にかけての日本脳炎予防接種の差し控えにより1期・2期の予防接種を逸らした方は、20歳になるまでの間、日本脳炎の定期予防接種（1期・2期）を受けることができるようになりました。

問 健康福祉班健康係 TEL 0243－62－0123

応援お願いします

9月17日から第5回市町村対抗福島県軟式野球大会が県営あづま球場で開催されます。浪江町を盛り上げるため、優勝目指してがんばります。

皆さまの応援よろしくお願いします。

■浪江町の初戦
9月23日(祝) 午後4時45分～
対平田村

■浪江町代表軟式野球チーム

代表 叶谷文平
監督 叶谷貴徳
コーチ 木村順一
コーチ 志賀裕徳
主将 佐藤明人
山田茂男
佐藤孝明
松塚和範
八橋勉
牛渡三四郎
石沢直樹
鎌田典太朗
玉野裕一
佐藤勝人
横山竜二
松本清秋
吉野聖光
半谷正彦
大友隆史
萩原世界
大内直挙
山田好彦
松本孝洋
千葉彰
吉田匠
石川恭兵
藤田知宏
山田裕貴
廻田陵

福島県外の民間借上げ住宅特例措置

民間賃貸住宅等を応急仮設住宅として受け入れている県は次のとおりです。

■福島県県外避難者支援担当 TEL 024－523－4157

都道府県	問い合わせ先
青森県	017－734－9580／9581
岩手県	0120－882－606
宮城県	022－211－3257
秋田県	018－860－4503
山形県	023－630－2640／2646
茨城県	029－301－5977
栃木県	028－623－0618／0619
群馬県	027－226－2950／2951
千葉県	043－223－2675
神奈川県	045－210－5985
新潟県	025－280－5444／025－282－1775
長野県	026－235－7407
静岡県	054－221－3081
兵庫県	078－232－9564／078－341－7711
宮崎県	0985－26－7196
沖縄県	090－3794－0530／8217

つながる こころ

町民の皆さまから寄せられたメッセージをご紹介します。

浪江町のみんな！元気にしていますか？

全国でそれぞれがんばっていると思います。
おじいちゃん、おばあちゃん、体こわさないでください。
お父さん、お母さん、お疲れさまです。
そして、子どもたち。みんな元気でがんばってね。
白河に避難している皆さん。みんなで集まりたいですね。
（まめぞう♡さん・白河市）

谷津田老人クラブ（朋友会）の皆さん、お元気ですか。

私は、植田（いわき市）に避難しています。元気でいます。
皆さんのことが目に浮かんだり、寂じてもいます。原発が収束すれば、必ず谷津田に帰れると思います。また、皆さんと会える日を待っています。お元気で。
（谷津田老人クラブ 菊池善次郎さん・いわき市）

皆さまからのメッセージお待ちしています。

はがきなどに①メッセージ（100字以内）②氏名（本名を載せたくない方はその旨と、ペンネームなどを併せて記入。）③年齢④浪江町の住所⑤避難先住所を明記の上、郵送してください。

郵送先
〒964－0904
二本松市郭内一丁目196－1（福島県男女共生センター内）
浪江町役場二本松事務所「広報なみえメッセージ係」
※お寄せいただいたメッセージは、必ず紹介されるわけではありません。
問 行政運営班 TEL 0243－62－0123

浪江のこころ通信

・第３号・

平成23年３月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、福島県内外に分散避難した浪江町民。長期化する避難生活、先の見えない不安の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

こうした町民の思いをつなげるために、“浪江のこころプロジェクト”が立ち上げられました。東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会（※）が中心となり、全国各地のＮＰＯ、大学等の皆さんが取材を進め、浪江町との連携のもと「浪江のこころ通信」が編集・発行されます。

浪江のこころプロジェクトは、分散避難している町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信」を通してお届けし、ふるさと浪江町がかつての暮らしを取り戻すことへの願いとこだわりを発信・共有しようとするものです。

※東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会は、東北圏（７県）の地域コミュニティ再生や協働のまちづくりの推進を目的として、大学、ＮＰＯ、企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信／第３号」への感想をお寄せください。

【連絡先】〒976-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1
男女共生センター内 浪江町役場二本松事務所
「浪江のこころ通信」宛
FAX.0243－22－4261

八幡喜美男さん・万里子さん

取材者：ＮＰＯ法人まちなか研究所わくわく　宮道・下地
取材日：８月９日

地に足つけて、心をひとつに前へ進みましょう

権現堂字蛭子町では、地元で取れる魚をメイン料理とした居酒屋「北のだいどころ」を経営。お店の仕込み中に震災にあった。３月12日には、親戚を頼り埼玉県へ避難。その後、娘夫婦とともに沖縄へ渡り、現在は沖縄県糸満市で夫婦二人で生活をしている。

▲喜美男さんと琉球かすり織りに励む万里子さん

■避難先沖縄での忘れられない朝ごはん

３月末に、娘夫婦と沖縄に避難した。だけど、沖縄に親戚や友人がいるわけでもなく、どこに行ったらいいのかわからなかった。情報を求めて県庁に行ったとき、那覇市の赤嶺団地自治会長さんと出会い、すごく親切にしてもらった。次の日から団地に入ることができ、孫の小学校の手続きから掃除や畳、布団、食べ物の準備まで、ＰＴＡや婦人会、同じ団地の方々にやっていただき本当によくしてもらった。お隣の方が「これ作ったから食べてー」と、朝ごはんにたくさんのおにぎりとスパムと卵焼きを持ってきてくれたときは、本当にうれしくって涙が出たよ。一生忘れられない。

■琉球かすりとの出会い

知らない土地で何もしなかったら気持ちも暗くなるけど、私（万里子さん）は”琉球かすり“という織り物と素晴らしい出会いをした。初めてかすりに触れたとき「すごいなー、いいなー。織ってみたい！」と思っていたら、縁あって織りをさせてもらえることになった。おもいっきり糸に触らせてもらって、教えてもらって、毎日がわくわくドキドキ。これから反物も織らせていただけるので、今は、織りをまっとうしたいという目標がある。

■育ててもらった浪江町

浪江町は、山の物も海の物もおいしい食道楽のまち。魚は、ヒラメ、オコゼ、カワハギ、フグ、タイ、カレイなどが豊富にとれる。浪江町で居酒屋をやっていたときは、魚の料理がメインだった。オコゼやカワハギ、生ダコの薄造りとかね。ビールと一緒に出していたんだよ。うちのビールはおいしいってお客さんにも言ってもらって…懐かしくて涙が出そう。浪江町は、一生懸命やる人をすごく応援してくれる情の厚いまちで、30年住んでいた私たちは本当に浪江町に育ててもらった。何度、浪江のみなさんに助けてもらったかわからない。浪江町に骨をうずめるつもりでいたのに、まさか沖縄に避難する日がくるなんて思いもしなかった。これから先、どうなるかわからないけど、地に足をつけないと何もできない。沖縄に渡った今は、沖縄の地に足つけて生きてくしかないよね。

■心を強く、前へ

全国に避難している人みんな、さみしい気持ちでいると思う。自分が悪いわけでもない、目に見えない相手と自然災害にやられている。心を折られないように、心を強くひとつにして前に進んでいきましょう。

伊丹　希偉さん

取材者：特定非営利活動法人　市民公益活動パートナーズ　古山
取材日：８月６日

一番遠くの避難先から今、福島市に。ようやくふるさとへ“半分の距離”

津島の自宅で震災に遭い、入院中の母親の搬送とともに、ご夫妻と息子さん夫婦の家族４人で原発事故直前に福島市へ避難。福島市から二本松市の避難所、親戚を頼って新潟県新潟市西区へ。さらに、４月半ばから耶麻郡磐梯町での二次避難を経て、７月末に福島市に転居した。

▲転居間もない福島市の自宅で、奥さまとご一緒に。

浪江町でも川俣町に近い津島で酒屋を営み、我が家で食べるお米や野菜を作りながら、空気も水も本当にきれいなこのふるさとで、心豊かに老後を送るつもりでした。

20年間、村おこしにも関わってきました。春から夏にかけては植樹やスポーツ大会、ビアガーデンなどを催し、11月には今年で21回を迎えるはずだった「いきいき夢まつり」を開いていました。予算は少なかったけれども、婦人会や交通安全協会、地元の会社、青年団など地域のさまざまな団体がそれぞれの得意なことを生かし、毎年、自慢のキノコの季節に手作りの祭りを行ってきました。この間、中ノ沢温泉（猪苗代町）にこの祭りのメンバーが集まることができ、１～２年くらいで戻れるならば再び祭りを興したいなどとふるさとの話をしてきました。

この福島市では、埼玉の私の妹のところに避難している母親もまもなく一緒に住むことになります。祖母、私たちと息子夫婦の５人が再び一緒になり、浪江に帰れる日を待ち望んでいます。

渡辺　智子さん

取材者：茨城ＮＰＯセンターコモンズ　石川
取材日：８月13日

戻る日まで前を向いて

田尻の新築したばかりの自宅で地震にあった渡辺さんは、お子さん４人と会社員の旦那さまとの６人家族。８月に入ってから茨城県の日立市にある民間住宅に移って生活している。

▲渡辺智子さんとお子さんたち

自宅は新築したばかりで海沿いではなかったので損壊は免れましたが、地震の翌朝、町の防災無線で避難指示があり慌てて避難をしました。そこから福島市の体育館、ホテルなどを経て現在、３カ所目である日立市内の民間住宅に引っ越してきました。

住宅はもちろん、次女の新しい中学の制服や自転車、学校に置きっぱなしのお気に入りの洋服、近所の方々との交流などすべて置き去りにしなければならなかったのは残念です。

しかし、無邪気で明るい４歳の末っ子がいることで、避難所でも家族内でも暗くならずにいられました。でも、そんな彼女も緊急地震速報のアラームが鳴るとかなり不安がるので、あまり表には出さないけれどダメージが大きいのかな、とも思います。

浪江に帰れるならずっと暮らしていくつもりで建てた家なので片付けもしたい、近所の方々や友だちにも会いたいなあ。早く元の生活にも戻りたいし、大変なことも多いけれど、自分たちはまだ恵まれているほうだと思います。

戻って落ち着いたなら家を流されたりして困っている方を助けたいです。

木幡　豊子さん

取材者：地域社会デザイン・ラボ　遠藤
取材日：８月11日

一番の財産はボランティア活動で築いた絆。だから今の私がある。

▲仕事帰りに仙台駅前で撮影

震災後、相馬の避難所、川俣町の親戚宅を経て、現在は以前に住んだことがある仙台市で夫、長男夫婦とともに４人で暮らす。今は市内でフルタイムの仕事を始め忙しい日々。休日は、浪江町在住時の知人や友人と会ったり、担当する役職の会合で出かけていることが多い。

浪江での生活を思い出してみると、本当に温かい人、思いやりのあるやさしさ人が多かったなと思います。結婚を機に住み始めましたが、地域のさまざまな役、婦人消防隊長、保護司、結婚相談所所長なども担当させていただき、私の楽しみになりました。特に「十日市」は印象的。３日間のイベントの司会を担当させていただきました。震災が無ければ、今も浪江でいろんな役を楽しく担当させていただいていたはず…と思うと残念でなりません。帰ったらまたボランティアや行政のサポート、地域の方のお世話をしたり相談にのりたいですね。

国や行政機関にお願いしたいのは、方針を明示しはっきりした情報を出して欲しいということ。これらが分からないから自分がどうすべきか決められません。ぜひお願いします。

現在はこのような状況ですが、空白の期間にしてはだめだと思います。自分なりの仕事や楽しみを持ち、自分の人生の今を大切に生きていきましょう。

横山　竜巳くん

取材者：茨城ＮＰＯセンターコモンズ　天井
取材日：８月12日

また、みんなで遊びたい

▲左から竜巳くん、妹・日向子ちゃん、兄・隼太郎くん

横山竜巳、小学４年生です。浪江町請戸に住んでいました。津波で家は流されてしまい、浪江町は避難区域なので、新潟県へ避難した後にゴールデンウィークごろから茨城県北茨城市のアパートに家族５人で住んでいます。

今の学校は、前の学校と同じひとクラスだけど倍以上の人数がいます。友だちもたくさんできました。朝は７人の班で20分くらいかけて登校します。前の家のように広い庭で友だちと遊んだりすることはできなくなったけれど、夏休みは外で遊んだり、友だちの家に行ったり、隣の部屋にいるおばあちゃんと過ごしたり、カードゲームやＤＳで遊んでいます。お兄ちゃんと妹と僕でお風呂掃除のお手伝いもしています。

今、お父さんは広野に、お母さんはいわき市に勤めに行っています。遠いのでちょっと大変そうです。

浪江の友だちの連絡先をお母さんが知っているので、連絡をとって行き来もしました。また、みんなで遊びたいです。

叶谷　勇郎さん・タケ子さん

取材者：特定非営利活動法人山形の公益活動を応援する会・アミル
　　齋藤・柴田
取材日：８月13日

お互いに苦しい不安な状況を乗り越えましょう また浪江町で会いたいです

３月17日にご家族10人で親戚を頼り山形県最上町へ避難。叶谷さん親子は請戸漁港の漁師。父勇郎さんの船「万寿丸」が津波に流されまだ見つかっていない。船の写真を大切にし、見つかることを願っている。息子の貴徳さんは浪江町野球チームの監督を務め、９月に行われる「福島県市町村対抗野球大会」に出場する予定。「こんなときだからこそ自分たちが野球を頑張って町のみんなに元気になってもらいたい。」と話す。

▲５月の一時帰宅の際に持ち帰った『漁船「万寿丸」』の船出写真と、夫婦一緒に。

３月11日の地震の後、息子の貴徳は請戸港にある船を係留するためにすぐに請戸港に向かったが、道で偶然会った漁師仲間に「津波だからだめだ。」と言われすぐに引き返し難を逃れることができた。12日の朝に防災無線で避難指示があり、川俣小学校まで家族10人で避難し、親戚を頼って山形県最上町に来た。２、３日経って落ち着いたら自宅へ帰れると思っていたので、こんなことになるとは思ってもみなかった。今不安なのは、先が見えないということ。故郷へ帰れるのか、それがいつごろなのか…。震災から１カ月は精神的につらく、上を見ることができなかったが、ここ数カ月は息子が重機の勉強をし大型特殊免許を取得したり、地元の漁協の会議に出たり、上を向き町の復興のためにできることを探していた。現在、息子は東京での仕事が決まり、９月から家族と離れて暮らすことになった。一度はあきらめかけた県の野球大会へ、皆さんの協力と熱い想いで参加することになり、楽しみにしている。

自分はやはり、また船長として海に戻り、浪江で暮らしたい。海から昇る朝日が懐かしい。これまで浪江で漁師として生活を築いてきて、息子に船を任せて頑張るべというときの震災だった。放射能さえおさまればまた漁に出られるとも思うが、漁業を再開して安心安全な魚を捕ることができるのか不安でいる。

４歳と８歳の孫は、ときどき「おうちにかえりたい」「もうおわりにしよう」と言うが、２人とも避難先で小学校に通い友だちもできた。子どもながらたくさん我慢していると思う。

最上町の皆さんはいい人ばかりで、散歩に行けばお茶飲んでいけと声をかけてくれたり、多く取れた野菜を持ってきてくださったり、町役場の人もよくしてくれ、とても感謝している。いつまでもお世話になるわけにはいかないという気持ちがあるが、どこに帰るといいのかと戸惑う。

自分や息子たちにとっては人生設計ができないことが一番つらいので、放射能に関する信頼できる情報が今は一番ほしい。

浪江町の皆さん、ばらばらになってしまったがお互いに苦しい不安な状況を乗り越えて、またきっと浪江町で会いましょう。

鈴木　大介さん

取材者：元気玉プロジェクト実行委員会　江川
取材日：８月15日

自分たちの酒づくりを存分にやっていきたい

家族とともに山形県米沢市に住み、南会津の蔵元で、残された酵母から「壽（ことぶき）」をつくった

震災後の津波で、自宅、蔵、仕込んだ酒、記録資料すべてを失いました。あのときの光景は、自分でも忘れることのできない光景です。

地震直後、消防車で避難誘導をしていました。大津波が迫りいよいよ危ないというときに、消防車を乗り捨てて高台へ避難しました。逃げ切れなかった人たちを避難指示によって捜索できなかったことが悔いに残ります。

現在、手元にある酒蔵の写真はすべて、取引先が蔵見学時撮影したものが残っているだけです。取引先には、できるだけ蔵に足を運んで酒と風土を理解してもらっていたことが、残された写真となりました。ありがたいことに自分たちの思い出が、人さまから伝わってくるのです。

家族親戚で米沢に避難しました。すべてが流されて酒なんてつくれると思っていませんでした。でも、あのころ（３月）雪がふって寒かったので、「まだ酒が造れるな。」という話しはしていたんです。そのとき、前からおつきあいのあった南会津町の蔵元で酒を１本仕込めることになりました。米は地元請戸で契約栽培をしていた同じ品種を用い、県の試験場に残っていた蔵独自の酵母で仕込みました。水が違うので全く同じ酒というわけにはいきませんでしたが、「壽」の味は出せました。

７月上旬にできた酒は約２、０００本余り。地元の方々に気持ちをいただき、つなぐのに精一杯だっただけに、「壽が飲みたかった。」といわれたときには涙が流れました。

わが家は、１８３０年ごろから続く造り酒屋です。ずっと地元の暮らしに寄り添ってきた自負があります。自分自身も前勤務先のある奈良県から戻ったとき、浪江の良さをすぐ実感し、酒造りを通して他の文化圏に情報を発信できる立場によろこびを感じていました。暑すぎず、寒すぎず、季節ごとに豊かな恵みあふれる風土、人々の営みが懐かしくて仕方がありません。

これから「酒づくり」を行なってゆく上で場所の問題は欠かせません。まだ拠点探しの最中で、自分が思うような良い環境はなかなかありません。

今回の震災後、たくさんの方の支援と応援を受けたことが、私の強いよりどころになり財産となっています。私たちの新しい酒造りは存分にこの思いを発揮した酒であること、浪江の復興そして文化継続に向けた場づくり、きっかけづくりに少しでも貢献できればと願っています。

▲南会津で仕込んだ「壽」は発売後すぐに完売

志賀　雄一さん

取材者：特定非営利活動法人ビーンズふくしま　豊田
取材日：８月10日

浪江の文化活動の再開を祈って

みなさんのご支援を胸に、早く浪江に帰ってすきな歌を思いきり唄いたい

私は今、妻と92歳の母の３人で二本松の促進住宅で過ごしています。

大地震発生のとき、私たち家族は浪江町樋渡の自宅にいました。パソコンで作業をしていたところ、気がつくと落ちてきた柱時計を抱いて横になっていました。まもなく防災無線で津波の知らせを受け、かけつけた妹と４人で山の中にある野菜直売所に避難しました。その日は妹の家に泊まり、次の日は原発事故の知らせで、そのまま４人で津島に避難しました。翌日の朝早く、川俣高校体育館に避難、妹は東京へ移動。私たち３人はここで２泊、翌日甥が迎えに来て仙台に移動。物資がほとんど無い中、アパートに半月ほど生活した後、４月から二本松市に来ました。財布も免許証も持たず逃げて来たのに、今は沢山の支援物資をいただきながら生活できることに大変感謝をしています。

今、望むことは、なんと言っても早く原発事故が収束して、愛する故郷へ帰ることです。これは浪江の町民のみならず、近隣の町民のみなさんが、胸が熱くなるほど望んでいることです。そして、一刻も早く町の復興の出発点に立たねばなりません。

私にとって残念なことが一つあります。私は浪江町芸術文化団体連絡協議会の代表を務めさせていただきながら、今は何もできないことです。そんな中、私の所属している合唱団員と一人一人連絡をなんとか取り合って、「合唱団だより」を発行することができました。さらに先日、福島市で交流会を開き、団員のみなさんと再会の喜びを分かち合うことができました。

浪江町には50団体を超える芸術文化団体があります。その団体の方々もあきらめずに、浪江に帰ることを祈念して過ごして欲しいと願っています。８月に浪江町の盆踊り大会が開かれたことは、大きな励みになったことと思います。町長をはじめとして職員のみなさん、商工会のみなさんお世話さまでした。

被災され、あるいは絶望の中にいる方もおられるかも知れませんが、近い将来必ず浪江町に帰る日が来ることを信じがんばりましょう。今はそんなところではないと言われる方も多いと思いますが、私は浪江町の芸術文化活動の再開を信じ、生活に励んでいきたいと思っています。

柴　孝一さん・タケ子さん・強さん・かおるさん

取材者：ちば市民活動・市民事業サポートクラブ　風間・鍋嶋
取材日：８月７日

生きていたら、きっといいことある！

震災後福島県内を転々とした後、東京の親戚に身を寄せ、６回目にしてようやく現在住んでいる千葉市稲毛区のマンション５階に移って来た柴さん一家。今は息子夫婦、３人の孫とおばの８人で暮らしている。

▲左から　孝一さん、孫の孝成（こうせい）くん、タケ子さん、かおるさん

■震災でなにもかもが

慣れない狭いマンション暮らし、周りの玄関は皆閉まっている中で、うちは浪江にいたときのように今も玄関は開け放っています。窓から玄関に抜ける風に、ふるさとの浜風の涼しさと気さくな近所の人たちとのやり取りを思い出します。

これまでずっと働き詰めで、やっとゆっくりできると思った矢先、震災で被災しました。老後の暮らしと孫の将来を考えて建てたばかりの家も、お墓も、そして天秤を担いで行商していたころから代々受け継がれてきた水産会社の工場や大量の在庫が入った冷凍庫、会社の車、長年注文をくれていたお客さんのデータも何もかもすべてを無くしました。会社は、息子が４代目そして小学５年の孫が５代目として続いていくはずでした。その孫が震災前のある日、「自分も名刺がほしい」と言うのでパソコンで作ってやりました。喜んでいる姿が思い浮かびます。

今、手元にあるのは震災後、無垢の床板だけが残っている我が家の様子を映した何枚かの写真だけです。

■久しぶりの再会

先日、子どもの小学校の卒業式があり久しぶりに福島のみんなと再会しました。みんなばらばらになったけど、子どもたちの気持ちはつながっていると感じました。会っている時間はとても短く感じ、改めて「請戸」を実感しました。そして、今は千葉で働きながら「浪江では、今頃はこんなことをしていたな。」って思います。それはふるさとでのちりめんじゃこや小女子の作業やお中元やお盆の忙しさに追われながらも穏やかな日々。これから子どもたちのためにも頑張らなければと思います。

■ありがたいと思う日々

震災当時は多くのお客さんや取引会社の方々が心配して電話をくださったようですが、無事でいることを伝える手だてさえありませんでした。こちらから連絡することはできませんでしたが、今は、千葉や埼玉のお客さんが心配してお米や野菜を持って来てくれたり、同業者や築地の方々がお見舞いにきてくれたり、本当にありがたいと思います。

家族が無事でいられたこと、親戚の助けがありがたく、これから先はどうなるか解らないが、「生きていたら、きっといいことがある。」と信じています。

最後に、「浪江町役場および自治体の方々も一生懸命にお仕事をされておりますが、お体を大切にして頑張ってください。」と伝えたいです。

半谷　秀辰さん

取材者：ＮＰＯ法人市民公益活動パートナーズ　松田
取材日：８月６日

復興したら　笑って酒が飲みたい

▲避難している北塩原村のコテージ前にて

大堀地区に暮らして25代目、祖先が焼き物をはじめて15代目を数える、大堀相馬焼協同組合の組合長さん。

福島市や茨城県の親戚宅を経て、日ごろから信頼し、相談相手でもある窯元さんが避難していた北塩原村へ移りました。娘さんとこの春に大学へ進学した息子さんは東京に住み、奥さんとご両親の４人暮らしです。

３４２年もの伝統を持つ大堀相馬焼きの里には、昔からのコミュニケーションが脈々と受け継がれていた。

伝統とは、地域の文化であり、地域のつながりだと考えている。だから、震災と避難のために、その絆が壊れてしまったことは、とても残念でならない。

大堀地区は、米がおいしく、高瀬川渓谷の眺めときれいな水があり、空気は澄んで蛍が乱舞するとても素晴らしいところで、ひとことでは言い表せない愛着がある。

平成14年に開館した「陶芸の杜おおぼり」の周辺には、桜や紫陽花、さるすべりなどの木を植えて、手入れをしてきたところだっただけに、悔しい思いで仕方がない。

また、昔から船乗りの守り神とされ、請戸の港に戻る際の目印とされた「戸神山」には十二支（干支）の石像が祀られていたが、損傷が激しくなっていたので、仲間たちと干支を描いた陶板を焼いて１００kgを超える自然石にはめ込んだ新たな十二支像を作成した。急な登山道沿いに力を合わせて設置したことも懐かしい思い出だ。

こうして、地元の話をしていると地域のみんなの顔が浮かぶ。実際に仲間の顔を見て話しができたら、きっと元気でやり直せると信じている。

千年に一度の大災害というが、以前の大堀地区を取り戻し、いつか復興したならば、つらいことも思い出話にして、みんなでうまい酒を酌み交わしたい。

石井　悠子さん

取材者：ちば市民活動・市民事業サポートクラブ　風間・鍋嶋
取材日：８月５日

いつかまた、家族みんなで一緒に暮らしたい

震災前、４世代同居の家族10人で生活していた石井さん一家。現在は、相馬市、二本松市、ひたちなか市（茨城県）、市原市（千葉県）の４カ所に分かれて避難生活を送っている。

４月２日から夫の博和さん、７歳、４歳、３歳の子どもたちと市原市の団地で生活中。

私は、職場で震災にあい、一度も家に戻らず福島県外に避難しました。同じ浪江町に嫁いでいた妹が臨月のお腹でしたので、とにかく早く遠くへ避難したかったのです。はじめの３週間は、叔母の暮らす埼玉に全員で避難しました。妹は、３月24日草加市立病院で男の子を無事出産、これからの日本に思いを込めて大和（やまと）と命名しました。

小学校２年生の長男、秀人（しゅうと）は、１年間通った幾世橋小学校への思いからか「新しいランドセルはいや。」と言うので、浪江町の自宅に夫が一時帰宅した際にランドセルを持ち帰りました。今では友だちもでき、サッカークラブにも入部、少しずつ千葉での生活に慣れつつあります。

蛍が飛びかい、子どもの好きなカブトムシがいっぱい採れた自然豊かな浪江町。祖母お手製のもろみに鮭やきゅうりを漬けて、祖父が作ったお米のご飯とともに、おいしく食べたことなど思い出します。浪江町には思い出がたくさんあります。小学校、中学校、高校といっしょにソフトボールをやった仲間や近所の人たち、親戚…会いたい人は、たくさんいます。

慣れない団地住まいで、子どもたちが部屋で走り回るたびに、上下の部屋に住む方々に迷惑にならないようにと、気遣いをしています。でも、大人のふんばる姿を子どもたちに見せることが、いつか子どものためになると信じています。今回の震災での困難は、乗り越えられる試練と思っています。

いつかまた、家族みんなで一緒に暮らすことができたらと願っています。

村岡　由果さん

取材者：中越沖復興支援ネットワーク　水戸部
取材日：８月17日

今いる場所は違うけど、浪江のことを忘れず生活したい

▲村岡さんと 長女 蓮果（れんか）ちゃん（左）、次女 果音（かのん）ちゃん（右）

地震発生時、幼稚園に子どもを迎えに行っていた村岡さんは、子どもの安否が第一に頭に浮かんだ。幼稚園の誘導で無事に避難していた子どもたちと夫、親族とともに避難所を転々としながら、現在は新潟県柏崎市で生活している。

大きな揺れに襲われたのは長女の蓮果を迎えに行く車中、ちょうど信号待ちをしているときでした。「早く迎えに行かないと…。」揺れがおさまってすぐに幼稚園に向かいましたが、蓮果はいませんでした。車で周りを探していると、ちょうど幼稚園の先生に会って、娘が高台に避難していることがわかりました。無事だった子どもたちとともに、その日は家で寝ることにしました。翌日、朝から家の片付けをしていると避難指示が出て、そのときはちょっと出かけるくらいの気持ちで服などを持って逃げました。その後、津島、本宮を経て新潟県柏崎市西山に避難しました。

夫とともに一時帰宅をしたとき、草木が無造作に伸びきっている町を見て「たった5カ月でこんなことに…何年も経ったらどうなるんだろう。」という不安を感じました。いつ戻れるかわからないし、先のことは何もわからない。でも、今いる場所は違っても浪江のことを忘れずに生きていきたいと思っています。

最後に、請戸の児童館の先生方、娘を迅速に避難誘導してくださり本当にありがとうございました。

原中　貴弘さん・君枝さん

取材者：（特活）新潟ＮＰＯ協会　富澤
取材日：８月22日

いつかゆっくりと浪江町や実家のあった請戸を娘と歩きたい

▲助産師さんから習った「生け花」の前で、原中さんご一家。

震災発生時、臨月だった君枝さん。新潟市内の病院にて、菜乃巴（なのは）ちゃんを出産。貴弘さんと貴弘さんのご両親、君枝さんのご両親は一時、新潟市北区の避難所で過ごす。菜乃巴ちゃんのことを考え、３人で新潟市に移住を決意。

出産予定が3月だったため、妻だけ震災直後、新潟市の市民病院に入院しました。私と私の両親、それから妻の両親は、数日後、新潟市北区の避難所に行き、しばらくそこで過ごしました。今後、私の両親は、新潟市から宮城県亘理町で、妻の両親は東京から南相馬市で暮らす予定にしています。

出産時は、新潟市内のある助産師さんとの出会いがあり、体も心もサポートしてもらいました。産後、妻の体調を気遣ってもらい、その方のご自宅に一週間お世話になりました。娘の菜乃巴は、食道閉鎖症で産まれ、翌日に手術をし、退院は一カ月半後でした。その間もお見舞いに来てくれたり、お知り合いの方を紹介してくれたりと、妻と娘の菜乃巴を実の娘と孫のように可愛がってもらい、現在も深い交流があります。

今不安なことと言えば、新潟の冬、雪のことでしょうか。二人とも浪江町出身なので、雪の生活には慣れてないんですよね。

それから、地元の方と話をしたいという思いがあり、地元福島県のナンバープレートを見たりすると、つい駆け寄りたくなります。この前は、逆に声をかけてもらい、浪江出身の方にお会いしました。

新潟県は、水害、地震と度重なる災害にあった経験があるからなのでしょうか、とても素早い受入れ体制をとっていただき、大変感謝しています。子どもの出生届と一緒に、私たち夫婦は新潟市に住民票を移しましたが、市からさまざまな情報が届くので、今の暮らしに不便はないです。逆に情報が豊富で、何を選んだらいいか困ったときは、助産師さんに相談しています。

浪江町の情報は、インターネットで調べたり、福島県内にいる友人などから電話で教えてもらっています。しばらくは新潟市で暮らすことを決意しましたが、いつか娘を連れ、ゆっくりと浪江と実家のあった請戸を懐かしんで歩ける日が来ることを強く願っています。そのためにも、町の情報はこれからもずっと受け取りたいです。

今回の震災で、ふるさとのことをとても尊く感じました。県外にいる私たちの思いや提案を受け付けてもらえる機関を設けてもらい、絶えず呼びかけていってほしい。もう誰一人悲しむことなく孤立することがないように。そう願ってやみません。